



第14回 つなぎ育む森づくり活動



■ 森を育てていく活動をこれからも・・・

～「より大きく、より健やかな森に育てる」活動を継続します～

当社は、地域貢献活動の一環として、平成23年より「つなぎ育む森」づくり活動に取り組んでおりますが、その第14回目の活動を令和元年6月1日（土）に実施いたしました。本活動は、当社が40年以上に亘り事業を継続できたことへの感謝の気持ちを形にし、「人と人」、「地域と当社」「現在と未来」といった様々な“つながり”を育んでくれるような森になって欲しい、との願いを込めて取り組んでいるものです。当初、新潟県と契約した植樹活動の5年間、次いで新発田市と契約した育樹活動3年間の中で、合計1,000本以上の木を植えてまいりましたが、森の育成には非常に長い期間、かつ地道な作業を要すること、当社が事業活動以外で緑の少年団をはじめとする地域みなさまに直接「寄り添う」ことのできる活動であることから、「**more FOREST**（より大きく、より健やかな森に育てる）」*造語 をキーワードとし、本活動を今後も継続していくこととなりました。

まずは5月29日（水）に当社社員による草刈りの事前準備からスタートいたしました。猛暑であった昨夏を思い起こさせるような、全国的に夏日を記録した今年の5月でしたが、前日から当日午前にかけての雨で少し涼しくなり、今度は湿度やぬかるみに悪戦苦闘しながらの作業です。新発田市さくら森林組合様のご指導のもと、エンジン付き草刈り機を用いて、来たる森づくり活動に備え、今回の補植エリアを中心に草刈りを実施しました。

■ さわやかな6月の滝谷森林公園 ■



6月1日（土）は、令和の時代を迎え初の森づくり活動本番です。今回もカンボク、ノリウツギ、ヤチダモの計50本を用意し、粘土質の土壌に悪戦苦闘しながら苗木を植えていきます。植樹を終えた後は、森林インストラクターの本間先生による自然教室が開催され、滝谷の森は育ちの良いところ、活着の悪いところとさまざまあるが、枯れてもその苗木が土壌を改良して森を作る礎となり、植えた木が地滑りを止める役割をすることから、植え続けることで未来の森につながっていくとのお話がありました。また、過去に植えたエゴノキについて、7月くらいまでその実は毒をもっているため動物が食べることはないが、熟したところには毒がなくなり鳥が食べることにより、さまざまな土地へ運ばれていくというお話には、新発田市緑の少年団の皆さんから多くの質問が飛び交いました。

ひと汗かいた後は、バーベキューやおでんなどでお腹を満たし、第14回の森づくり活動は終了いたしました。当社は、これからも本活動などを通じ、地域の環境保全に貢献してまいります。